

病院における 就労相談の実際

日本医療社会福祉協会
四国がんセンター
がん相談支援センター
MSW 関木裕美

日本医療社会福祉協会

保健医療分野で働くソーシャルワーカー(医療ソーシャルワーカー)や医療社会事業の普及・発展を支援する人々によって構成されている団体。

愛媛県医療ソーシャルワーカー協会



医療ソーシャルワーカーの資質向上を図り、社会福祉の増進と保健・医療・福祉の連携に貢献することを目的に設立。145名を超える会員数で構成。病院のみならず老人保健施設や地域包括支援センターなどが会員となっている。

医療ソーシャルワーカー(MSW)による就労支援

保健医療機関において、社会福祉の立場から患者さんやその家族の方々の抱える経済的・心理的・社会的問題の解決、調整を援助し、社会復帰の促進を図る業務を行う。

厚労省『医療ソーシャルワーカー業務指針』

1. 療養中の心理的・社会的問題の解決、調整援助
2. 退院援助
3. 社会復帰援助
4. 受診・受療援助
5. 経済的問題の解決、調整援助
6. 地域活動

仕事続けられるだろうか...

病気のこと上司や同僚にどう伝えよう...



社会復帰が円滑に進むよう、社会福祉の専門的知識及び技術に基づき

- ① 患者の職場と調整を行い、復職を援助すること
- ② 関係機関、関係職種との連携や訪問活動等で、社会復帰が円滑に進むよう心理的・社会的問題の解決を援助すること

四国がんセンターにおける就労相談

がん相談支援センターの相談実績

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年 (4月～6月)
就労関連 (件数)	32	38	42	51	18

相談件数が徐々に増加し、治療と仕事の両立についての悩みを吐露できるようになってきた

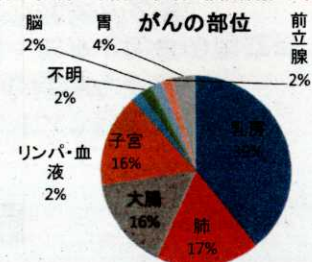


平成29年4月～平成30年6月 相談件数 69件

相談方法 面談:38 電話:31

性別 男性:15 女性:54

平成29年4月～平成30年6月 相談件数 69件



就労相談内容

● 診断時や告知後の不安

- ・手術、放射線治療予定。3ヶ月程度の休職が必要であるが、スタッフ数がギリギリの状態
で業務を行っているため休職について職場に言えない。
- ・長期に休むと辞めさせられるのではないだろうか。

● 情報の支援

手術後放射線治療予定。職場よりあまり休まれると困ると言われている。放射線治療は通院で行いたい。放射線治療の実施時間帯や開始時期、期間などを知りたい。

● 職場復帰後の配慮事項

立ち仕事のため手術後どの程度動いて良いか、安静度等の注意点についての診断書依頼

● 病気の公表

職場へは病気について詳しく伝えていない。病気について全て話しないといけないだろうか。言いたくない場合は仕事を辞めたほうが良いだろうか。

● 失業の危機

手術のため休職中。今後追加で放射線治療、抗がん剤治療予定でもうしばらく治療が必要。派遣先より契約解除の話が出ている。

今後の課題

- ・働く患者さんは職場への遠慮や言いにくさを感じている
- ・病状や治療による身体的な問題や心理的な不安
- ・職場の理解促進と患者自身が職場へ治療と仕事の両立で必要な情報を伝えられるような支援の充実が必要



- ・ 職場と患者と医療間の情報共有の促進
- ・ 『療養・就労両立支援指導料』の新設により、産業医のいる職場と医療の連携の下、両立支援の充実が求められている
- ・ 産業医がいない職場で働く患者への支援が課題
⇒がん相談支援センター(医療ソーシャルワーカー)介入の仕組みづくりが必要

職場環境づくりと相談支援体制の充実